



▲壁に飾ってある看板は、木育ひろばで使うものです。看板やメッセージボードは自身で手がけています。

## 木を使って遊びと学びを届ける

木育インストラクター 大谷俊行さん (伯太町井尻)

「木工を通じて子どもたちの心を豊かに育てたい」。こう話すのは、木工家具製作をしながら木育活動を進めている大谷俊行さん（37歳）。木育インストラクターの資格を持ち、子どもたちに木や森の大切さを伝える活動（木育ひろば）を行っています。

ものづくりが好きだったことから木工の道に進んだ大谷さんは、仕事で使う木材の元となる木や森の大切さを教える「木育」に興味を持つようになり、その後、木育インストラクターの資格を取り、会社で働きながら木育活動を行ってききました。

活動を進めているうちに「今よりも自由な時間を持つて、もっと木育を広めたい」と思うようになり、平成30年に独立。家具工場を営むかわら、市内外の保育所や公民館などで本格的に木育ひろばを開催しはじめました。

「このひろばでは、木のおもちゃに触れてもらって、手触りや香りなどを体験してもらいます。そのあと、このおもちゃは木で作られていることや、木にはたくさんの種類があり、その木は森で育まれていることを教えます」と講座の内容を語ります。

「簡単に言うと、おもちゃで遊ぶためには、森を大切にしないといけないと気づいてもらうんです」。大谷さんは遊びだけでなく、学びをセツトにした講座にすることを大切にしています。

森の木々は地球温暖化の原

因となる二酸化炭素を吸収します。そのため、地球温暖化を防ぐためには、森を大切にしなければいけません。安来市地球温暖化対策地域協議会の委員を務める大谷さんは、地球で起きている環境問題について考えるきっかけを子どもたちに伝えていきます。

「木材を扱う人間として地球温暖化や自然環境のことを訴えていくことは、義務だと思っています」と自身の活動の原動力となっている思いを口にします。

「市内全ての保育所、子ども園で、木育ひろばができればと思っています」と次のステップにも目を向ける大谷さん。これからも「木・森のファン」を増やすため、遊びと学びを届けます。



▲家具工場に隣接する展示スペースには、木製のおもちゃが数多く並んでいます。

## 編集後記

安来市の人口と世帯数 R.2.5.31現在

人口合計 / 38,093人  
 (男:18,297人 女:19,796人)  
 世帯数 / 14,404世帯

▼安来の平和を守るヒーロー「環境戦士トジヨーン」。誕生したのは数年前ですが、今の危機を知り、久々に登場してくれています。記事用に撮影交渉をすると変身後の状態ならOKとのこと。ヒーローらしく素顔を見せないのだから思っていると「単純に恥ずかしいだけです」と理由を明かされました(旬)

▼蛍を撮影しようと、6月上旬に吉田交流センターへ相談に。「蛍は、雨が降り、湿度が高い日に出てくるよ」とアドバイスをいただきました。原稿締め切りまであと3日しかなかったため、手元のスマホで週間天気予報を確認したところ、全て晴れマーク。今回ばかりは、晴れ男の自分が裏目に出ました(〇)

